

宇宙の缶詰

160-26

キタキツネの缶詰ならいくらでもあるよ！

私は声を張り上げる

新鮮でぴちぴちした若い雌の肉だよ

いつか来た道を馬車で運ぶ

淑やかな女性の胸にも

キタキツネの空き缶から作られた

星形ブローチが胸元に着いている

軽やかな蹄の音に君は宇宙を感じ

馬の手綱を緩めて大空を眺める

見えない星がきらりと光り

キタキツネの缶詰にも降り注ぎ

彼女のブローチは妖しく輝き

御者の君を誘惑している

知らん顔して馬は走る

君は何かを感じて空を仰ぐ

空は快晴、何の心配も無いようだ

2頭立ての馬車は走るのを止めない

君は誘惑にどうしても我慢できない

キタキツネも我慢できない

宇宙には君の理解できない法則で満ちている

満足している君は馬になつた方が仕合わせだと
軽やかな蹄の音と薫風が唆す

君は決意して馬になる

その瞬間、君は肉とされ、偽キタキツネの缶詰となり

表装も偽装されて宇宙船へとゴウノトリ千万号に積み込まれる

沖繩にも雪が降つたとのニュースの陰には

偽装された宇宙がにっこりと微笑んで

新たな君がやってくるのを待っている

ハッピーバースデー ツーユーと唄う

初出「即興ゴルコンダ(仮)」

<http://golconda.bbs.fc2.com/>

タイトルは、沢田マヨネさん